

27. 歴史ある橋梁を活かした環境・景観の保全と創造(例)

萬代橋: 重要文化財指定を機にオーセンティシティの考え方で照明や橋詰めなどを整備し文化的価値を高めた例

■ 重要文化財指定を機に建設当時の姿に復元



建設当時の萬代橋
1929(昭和4)年8月竣工



橋詰め広場の復元



照明灯・橋側灯の復元



■ 市民に愛される名橋、萬代橋



萬代橋誕生祭



オープンカフェ

■ 錦帯橋



岩国市観光課HPより

28. 各国主要都市圏の環状道路の整備状況

首都圏

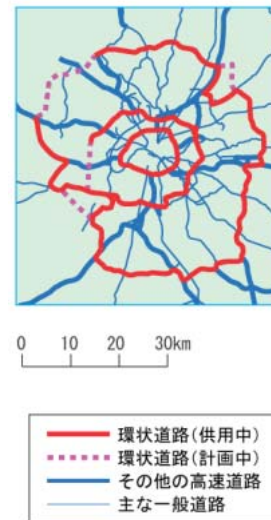


延長: (2005年3月調査)
人口: (2004年3月調査)

計画延長	522km
供用延長	181km
整備率	35%
人口: 2,853万人 人口密度: 4,440人/km ²	

出典: 国土交通省

パリ

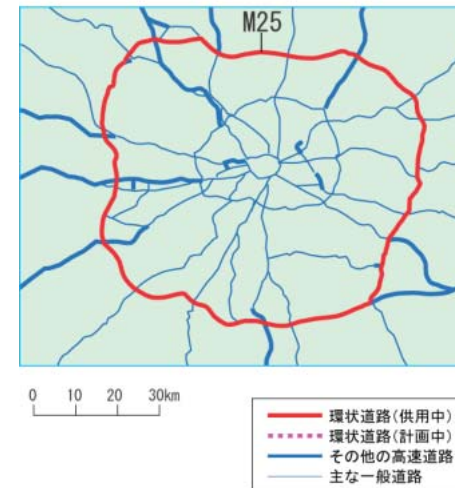


延長: (2005年2月調査)
人口: (1999年調査)

計画延長	313km
供用延長	262km
整備率	84%
人口: 861万人 人口密度: 4,482人/km ²	

出典: イル・ド・フランス地方道路
インフラ計画課

ロンドン



延長: (2003年調査)
人口: (2002年調査)

計画延長	188km
供用延長	188km
整備率	100%
人口: 898万人 人口密度: 2,206人/km ²	

出典: 英国交通省

ベルリン



延長: (2004年調査) 人口: (1999年調査)

計画延長	222km
供用延長	216km
整備率	97%
人口: 405万人 人口密度: 1,425人/km ²	

出典: ドイツ連邦交通省

(注1) 人口・人口密度: 概ね環状道路の内側

(注2) 「首都圏」の環状道路の内訳は、放射方向の高速道路を相互に結ぶ赤で表記した路線とし、当面活用が可能な道路を供用延長に含めた。

29. 道路空間の再構築による歩行者空間等の確保(トランジットモール)

- 浜松市の鍛冶町通り(幅員36m)では、車線数を削減し、歩道を拡幅するなど、道路の再構築を計画

断面図

(A - A'部分)

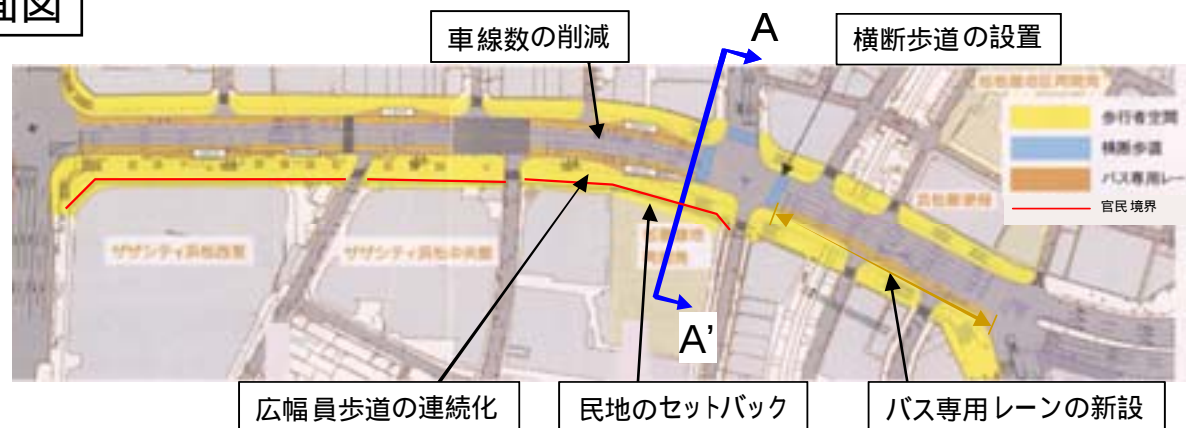
現況



短期の計画



平面図



トランジットモールの
社会実験の状況



整備イメージ

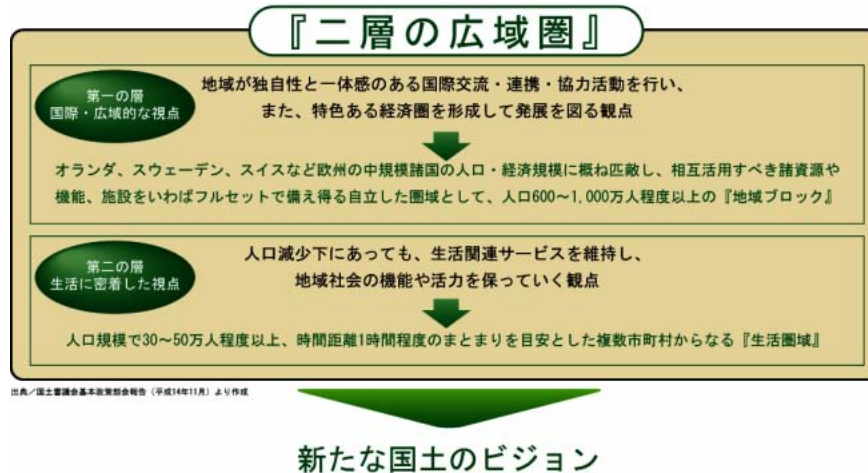


4. 施策展開における主な論点

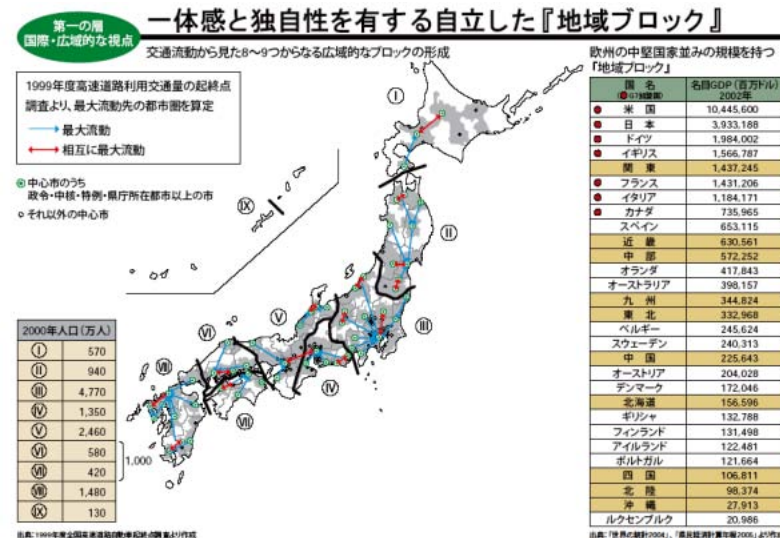
(4) 国民生活の基盤としての戦略的ネットワーク整備

30. 新たな国土計画の議論～『二層の広域圏』の提案(1)

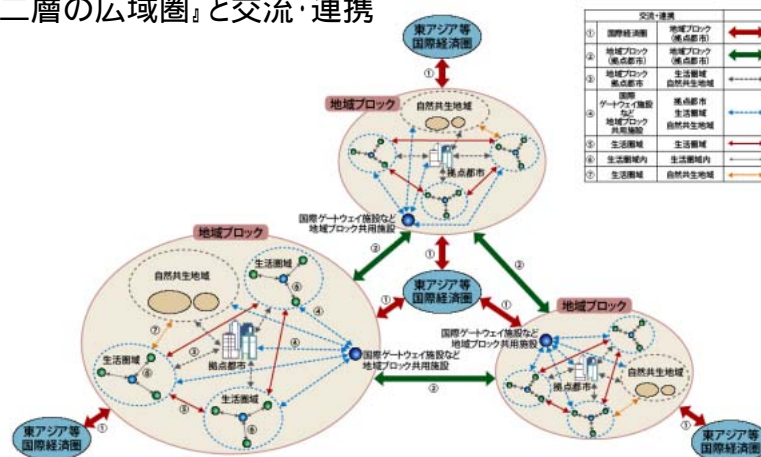
- 新たな国土計画の方向性に呼応して広域交通ネットワークを検討
- 「二層の広域圏」では「地域ブロック」と「生活圏」、「多自然共生地域」からなる国土構造を提案



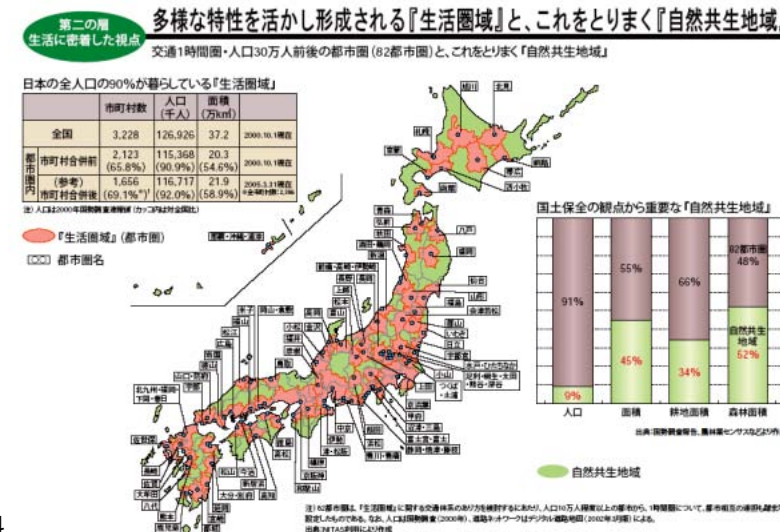
出典：国土審議会基本政策部会報告（平成24年11月）より作成



『二層の広域圏』と交流・連携



出典：『二層の広域圏に資する総合的な交通体系に関する検討委員会』最終報告資料



4. 施策展開における主な論点

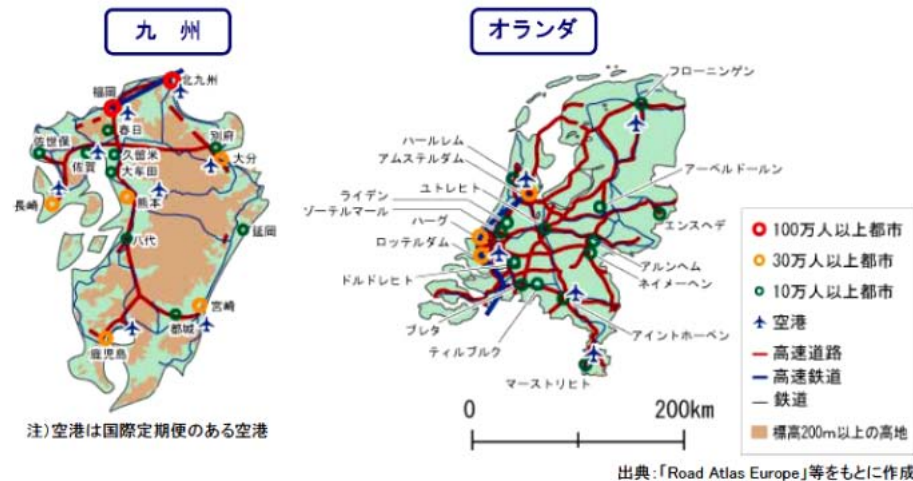
(4) 国民生活の基盤としての戦略的ネットワーク整備

31. 新たな国土計画の議論～『二層の広域圏』の提案(2)

- ・「地域ブロック」は、欧州の中規模一国に匹敵する600～1,000万人以上の人口規模を目安
- ・「生活圏域」は、日常生活の活動範囲となる交通1時間圏・人口30万人前後のまとまりが目安

『地域ブロック』のイメージ

地域グローバルゲートの成立に求められる集客人口等が確保でき、多様な人材の育成、重層的で多彩な地域社会の形成やマネーフローのダイナミズムも実現できる可能性



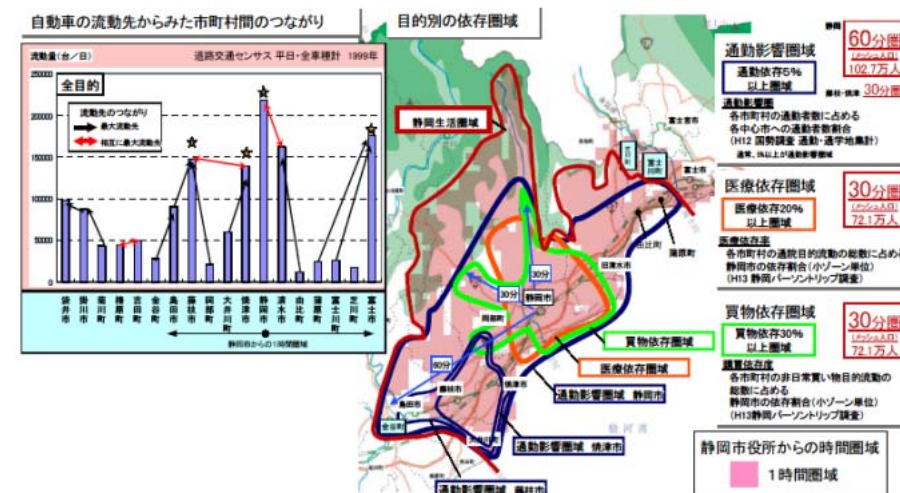
■九州とオランダの人口、面積、GDP等(2002年)

	人口 (万人)	面積 (km ²)	GDP (100万米ドル)	地形の特徴
九州	1,345	42,170	344,824	中央部に山地
オランダ	1,610	41,526	417,843	平坦な地形

注) オランダの面積は 2001 年値

『生活圏域』のイメージ

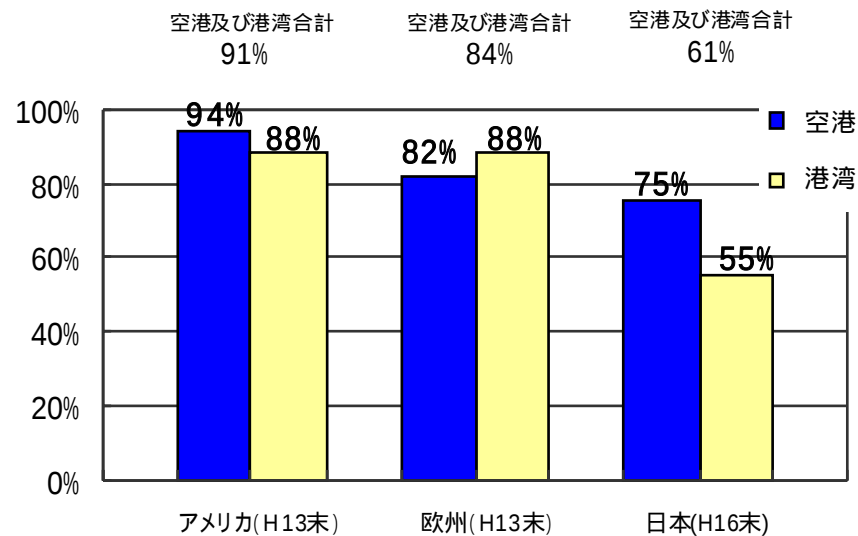
人口減少下にあっても、日常的に必要な都市的サービスが適切かつ効率的に享受でき、地域の振興を通じ安定的な雇用の場も確保され、誇りを持って生活できる環境を確保していくことが重要



3 2 . 高規格幹線道路網と空港・港湾との連絡

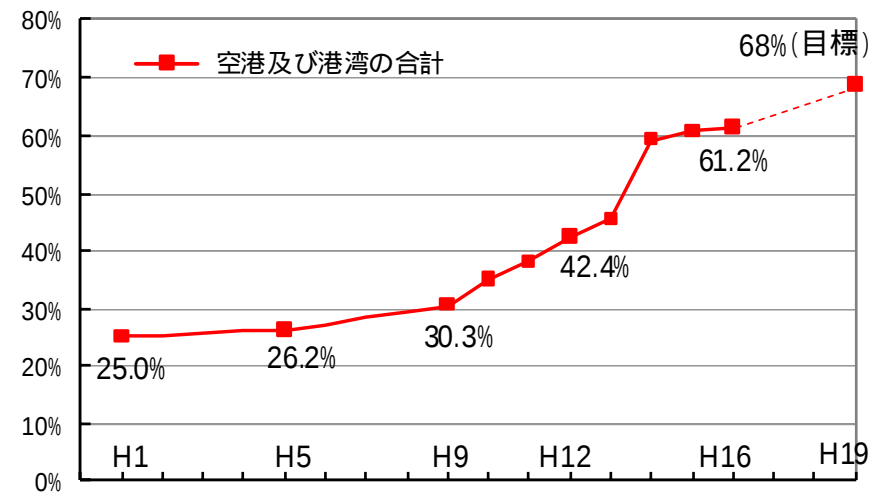
• 空港・港湾と高規格幹線道路網とのアクセスは、近年大きく向上したものの、国際比較においては遅れがある

【 拠点的な空港・港湾への道路アクセス率 の国際比較 】



注) 対象空港：日本 / 第1種空港及び国際定期便が就航している第2種空港。
：欧米 / 国際定期便が就航している空港。
対象港湾：日本 / 総貨物取扱量が年間1,000万t以上又は国際貨物取扱量が年間500万t以上の重要港湾及び特定重要港湾(国際コンテナ航路、国際フェリー航路及び内貿ユニット航路のいずれも設定されていないものを除く)。
：欧州 / 総貨物取扱量が年間1,000万t以上の港湾。
：米国 / 総貨物取扱量が年間1,000万t以上又は国際貨物取扱量が年間500万t以上の港湾。

【 拠点的な空港・港湾への道路アクセス率 の推移 】
(平成元年度末～19年度末)



拠点的な空港・港湾への道路アクセス率
：高規格幹線道路、地域高規格道路又はこれらに接続する自動車専用道路のインターチェンジ等から10分以内に到達が可能な拠点的な空港・港湾の割合

3.3. 目標宣言プロジェクトの取り組み方針

目的

投資の選択と集中及び事業進捗管理による供用目標等の公表・実現と整備効果の早期発現を図り、事業の透明性と信頼性を向上させる

概要

進捗の環境が整った事業について、個別事業箇所・事業区間・延長等の事業内容、個別事業毎の供用目標・事業効果・執行目標等を公表

九州地方整備局の例

路線・事業箇所名	事業区間	延長	平成16～20年度の供用目標	事業効果	平成16年度の執行目標	担当事務所
改善事業						
国道3号 黒崎バイパス	北九州市八幡東区 ～同市八幡西区	5.8km	H19年度 舟町ランプ～陣原ランプ 2.9km 2/4車線供用	・黒崎地区都市再生の支援 ・主要渋滞ポイント「筒井交差点」の 交通渋滞緩和 ・時間短縮効果 約98万人時間/年	用地取得完了(H19供用区間) 本線橋下部工工事着手	北九州国道
国道3号 岡垣バイパス	遠賀郡岡垣町 ～宗像市	5.3km	H16年度 岡垣町山田～山田ランプ H19年度 山田ランプ～野間ランプ 1.3km 4/4車線供用(2/4→4/4) 2.0km	・福岡市と北九州市との連携強化 ・交通円滑化 ・時間短縮効果 約22万人時間/年	1.3km区間4/4車線供用	北九州国道
国道3号 東橋原拡幅	久留米市	0.9km	H17年度 久留米市東橋原町～同市通町 0.9km 4/4車線供用 (4車線拡幅、全線供用)	・主要渋滞ポイント「東橋原交差点」 の交通渋滞緩和 ・沿道環境の改善 ・時間短縮効果 約38万人時間/年	用地取得率92% 筒川園渠工事着手	福岡国道
国道10号 行橋バイパス	京都郡苅田町 ～行橋市	5.4km	H17年度 苅田町二先山交差点 ～新長峽川橋 0.7km 4/4車線供用(2/4→4/4)	・「二先山交差点」の交通渋滞緩和 ・新北九州空港へのアクセス強化 ・時間短縮効果 約25万人時間/年	二先山交差点付近改良工事完成	北九州国道

スケジュール

平成18年7月： 5年以内目標宣言プロジェクト公表

34. 政策提言などを含めたPIの拡大・深化の動き

・道路に関する政策提言を行う団体、既存道路の改良ニーズを利用者の視点から提言する団体など、道路に関わる市民団体の活動が拡大・深化している

例1 K.CAT(金沢の都市と交通を考える会)

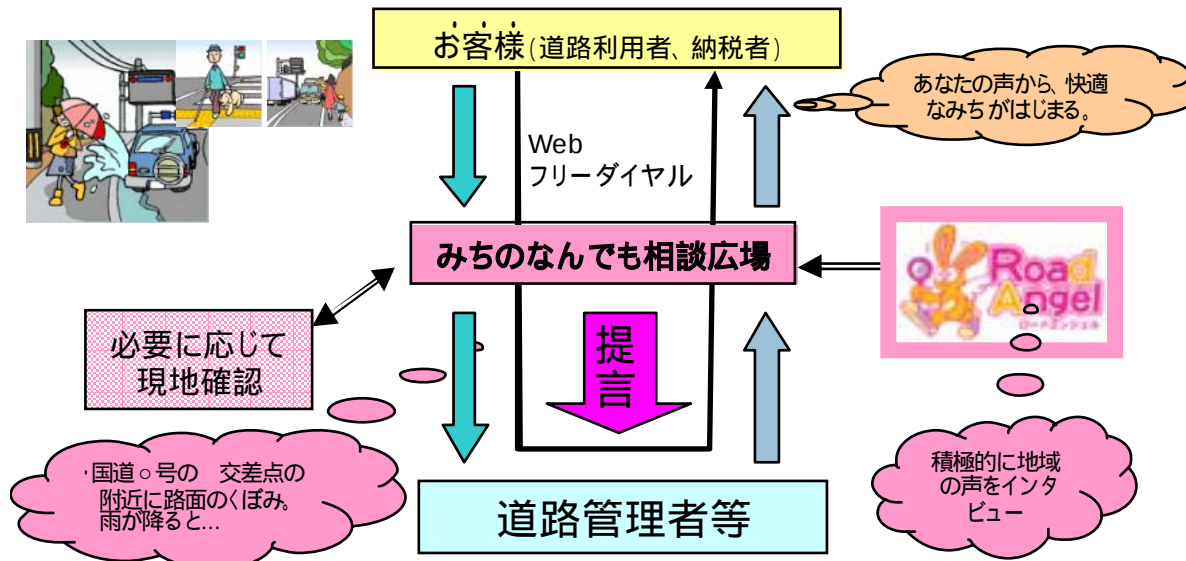
- ・平成10年12月に金沢大学工学部教授を代表として発足
 - ・金沢の都市と交通のあり方について、その方向性や施策を行政に提言するとともに、市民へ提案・啓発を行うことを目的に開催
 - ・学識者、経済人、一般市民、若手行政担当者など15人で構成
- まちづくりに関する意識高揚を図るため、市民へのヒアリングやフォーラムを開催するとともに、市長への提言実績も。
- ・定例会：毎月1回程度、通算74回開催（平成18年3月現在）
 - ・市民フォーラム：7回開催（H11～H17年度）



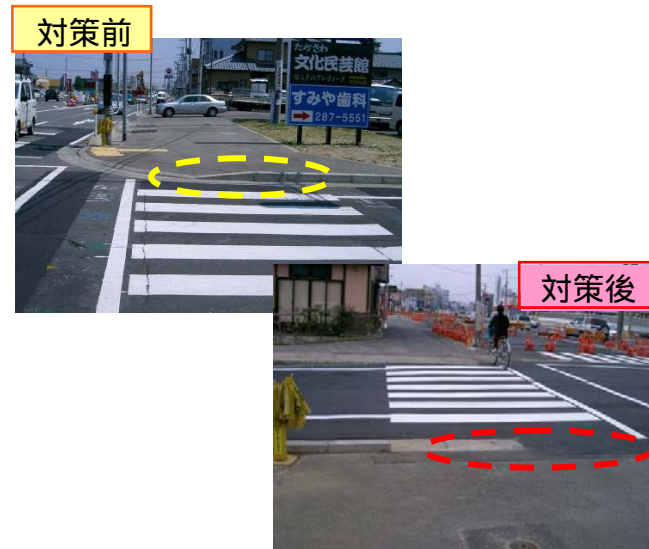
H18.2月 K.CAT主催の討論会
「2020年 交通が金沢を変える」
182人参加

例2 「みちのなんでも相談広場」(新潟)

道路利用者の目線で活動するNPOと国道事務所が協働で「みちのなんでも相談広場」を開設。NPOメンバーが「ロードエンジェル」として道路利用者の声を積極的に収集し、道路管理者等に提言



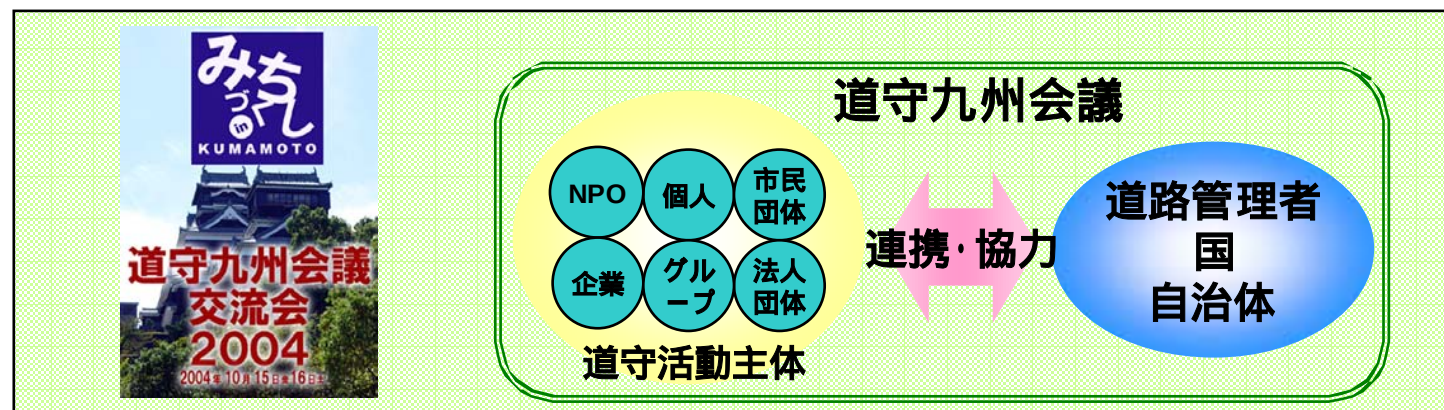
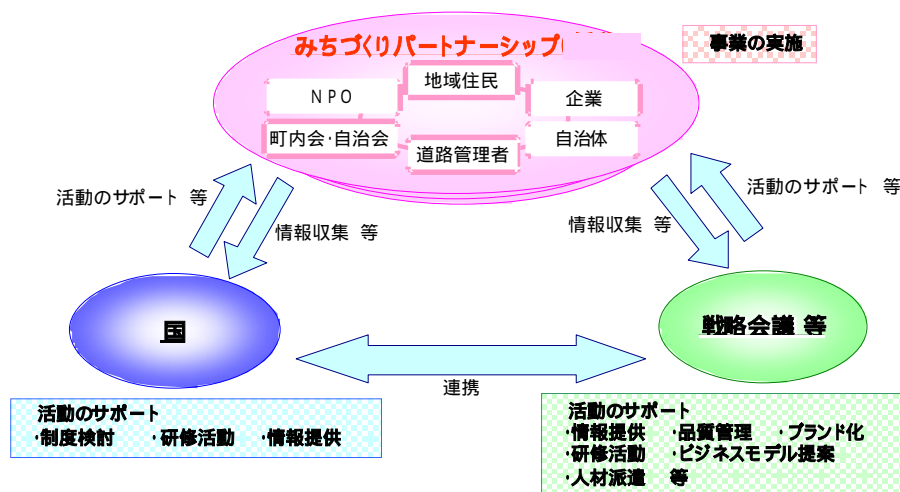
【住民からの相談を受け対応した事例】



35. 道づくりにおける国民の参加と責任

・道路管理者と市民の関係は、「対話と協働」、「参加と責任」の精神のもと、関係者が皆でよりよい道路と地域をつくっていくことが必要

【日本風景街道(シーニック・バイウェイ・ジャパン)の運営体制イメージ】



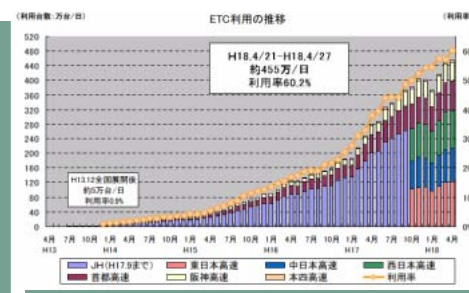
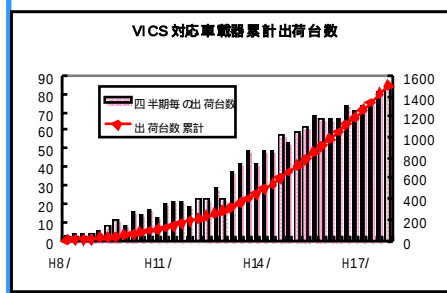
36. ITSの進展と新たなサービスの方向性

○ ITSの進展

VICSは累積約1500万台出荷^{*1}

ETC利用率約60%(セットアップ数約1,200万台^{*2})

^{*1} 2006年4月現在 ^{*2} 2006年5月現在



○ ITSの推進の方向性

スマートウェイ推進会議(豊田章一郎委員長)
提言(2004.8)

ITS、セカンドステージへ
「先端、流行から社会的課題の解決に向けて」

IT新改革戦略(2006.1)
[IT戦略本部(小泉純一郎本部長)]

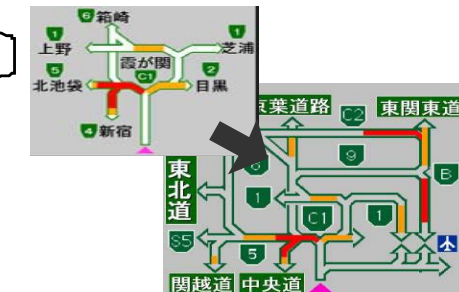
高度なITSを実現し、
世界一安全な道路交通社会へ

○ 情報提供新サービスの展開

・プローブ情報の活用による道路交通情報の広域化・精緻化や音声、静止画像を活用したわかりやすい道路交通情報提供で二酸化炭素削減・安全性向上



音声や画像で分かり易い情報提供



情報提供の広域化・精緻化

○ 安全な道路交通社会の実現

・AHS(走行支援道路システム)を活用し、道路と車両が連携し、ドライバーへの注意喚起等により、事故を削減し、安全で快適な自動車の走行を支援

